

体験的読書論



新聞記者時代、よく受けた質問が「どうしたらうまい文章を書けるようになりますか?」。私の答えはこうです。「あなたが今、おしゃべりしていることをそのまま文字にすれば、いい文章になりますよ」。

これは体験からきている回答です。職業柄、講演や卓話をよく頼まれましたが、当初は「書くのはともかく、おしゃべりは放送記者にやらせろ」と逃げ回っていました。しかし、ある時から積極的に引き受け始めました。「うまくしゃべることは、いい文章、記事を書くことにつながる」と実感したからです。

“開眼”のきっかけは、主催者が私の講演をテープに録音していたのですが、機器のトラブルで集録できず、私に講演内容を広報紙に載せたいので、文章におこして欲しいとの依頼があったとき。

「文章を書け」といわれると、つい構えてしまい、どうしても固苦しい文になりがちですが、その時の注文は自分がしゃべったことをそのまま文字にすればいいという気安さもあって、結果的にはわかりやすい、肩の凝ら

佐賀県立図書館協議会委員長 吉野 徳親

ない文章を主催者に提供でき喜ばれました。

私の読書体験も、親から「本を読みなさい」と強制されたりとかでなく、まさに自然体。年代によって好みがクルクル変わり、したがって「読書はこうあるべきだ」という「論」を私は全く持ち合わせていません。小中学生のころは伝記モノ、高校時代は「野菊の墓」のような純愛モノ、大学時代とかけ出し記者のころは、大江健三郎の難解な作品に挑戦する一方、中間小説、雑誌を片っ端から読みあさる、といった具合。

今から思うと、こういうスーパーマーケット的読書体験が“糧”(かて)となり、やがてコラムなども楽しんで書けるようになり、また講演で人生論も語れるようになったのですから、読書の効用は計りきれないほど奥深いといえます。

さて、県立図書館にこのほど「改革提言」をしたところですが、県内のあらゆる図書館とネットワークを組み、その核になれ、というものです。本当に言いたいのは「図書館は本を読むところ」というイメージを払しょくして欲しいのです。図書館は本を介して地域のきずなを復活する拠点に、との願いを込めた提言です。改革を期待します。

(元佐賀新聞社会長)

1	●巻頭言「体験的読書編」
2	●さらなる「図書館先進県づくり」に向けて ●図書館で「支える力」学ぶ ●AED(自動体外式除細動器)を設置しました
3	●今年も「本のリサイクルフェア」は大盛況! ●本で見る佐賀
4	●2006(第60回)読書週間 ●佐賀の歴史探訪ウォーキング
5	●ご活用ください。佐賀県立図書館
6	●郷土研究講座「新発見の有田皿山代官の記録から」
7	●古文書の紹介(2)
8	●お答えします ●行事予定 ●寄贈お礼

佐賀県立図書館のご案内

所在地/〒840-0041 佐賀市城内2-1-41(県庁東)
TEL/0952-24-2900
FAX/0952-25-7049
Eメール/info@lib.pref.saga.jp
ホームページ/http://www.lib.pref.saga.jp
開館時間/9:00~20:00 [児童閲覧室は10:00~17:00]
休館日/毎月の最後の水曜日・年末年始・特別整理期間